



新野貴恵さん
(東根地区)

海を越えて
来ました。

インタビュー よいぞったなっすー

県外の友人が
いつも白鷹町をほめてくれます。

すっかり白鷹弁も板につき、この町が大好きという新野さん。

やさしい笑顔が印象的なお母さんでした。

白鷹より断然寒い！

北海道の札幌市出身。冬は道路がスケートリックのように凍りますが、雪は軽くて除雪が楽です。夏は湿度が低いのでいつも爽やかで汗がだらだら流れることはありません。

白鷹町の印象

のどかな町だなあが第一印象。医療費は無料だし、待機児童はいないし、何よりも地域の目に守られている感じがして子育て世代は住みやすいと思います。

お仕事は

英語教室を土里夢館とパワーセンター、あゆーむで開いています。年少さんから中学校2年生が対象です。白鷹弁も得意です。

苦労と、よろこび

電話は苦労しました。まず、誰からの電話かわからず何回も聞き返していました。でも「よく遠くから海を越えて来てくれたな」とご近所からほめられた時は、ほんとにうれしかったです。

食べ物

おいしい！そば、お米、果物、なんでも。生産者が身近に感じられるのがいいですね。でも、海のもの北海道のほうがおいしいですよ！

男女平等と言うなら

地域や学校の役員、議員さんも、初めから女性枠を決めておけばいいと思います。やりたいと思っている人が一歩踏み出せる環境になるのではないでしょう

ほめられてますよ！

県外に住む友人が、いつも白鷹町をほめてくれます！
*田舎の悲壮感がない
*元気で明るい町だ
白鷹で生まれ育った人は比べる対象がないので、いいところ

ろがわからないのかもしれない。

飛び出せ！若者

子どもたちには、どんどん町を飛び出してもらいたいです。まずは町を出て、外から白鷹町を見てほしいですね。必ず白鷹町がいい町だと実感するはず。それから戻ってきてほしいです。

議会へ望むこと

わかりやすい事が大事です。若い世代の声を届けてもらいたい。地域とつながり、問題を吸い上げ解決してください。



編集後記

『議会だより』と聞けば、たいいてい「難しい、楽しくない」などと思われがちです。大切なことは、まずは読んでいただくこと。そのために、たくさん子どもたちの写真を載せたり、なるべく難しい言葉を使わないなど、様々な工夫をしています。色使いや書体にも気を使っています。

この度、昨年7月発行の本誌127号が、山形県町村議会広報コンクールで入選の表彰をいただきました。これを励みに、委員一同さらに、親しみやすい議会広報の編集に頑張ってください。

(佐々木)

広報委員

委員長	山田 仁
副委員長・編集長	小口 尚司
委員	石川 重二
委員	佐々木 誠司
委員	笹原 俊一
印刷	長谷川印刷

